

第1回慶應スポーツ医学研究会

平成13年3月27日（火） 午後6時から
新教育研究棟 3階 講堂（2）

演題

- 1) シドニーオリンピックにおけるドーピングコントロール
JOCアンチドーピング委員・日本陸連医事部長・丸紅健康開発センター 山澤文裕
- 2) ソルトレークに向けての医学サポート
慶應義塾大学スポーツ医学研究センター 大西祥平
- 3) 骨粗鬆症に対する運動療法 最近の知見
慶應義塾大学病院スポーツクリニック 岩本 潤

ソルトレークに向けての医学サポート

大西祥平

2001年ソルトレークオリンピック会場はSalt Lake City (フィギュア, スピードスケート, ショートトラック), Deer Valley (アルペン/スラローム), Park City (アルペン, スノーボード), Soldier Hollow (クロスカントリー, ノルディック複合, バイアスロン), Utah Olympic Park (ジャンプ, ノルディック複合, ポブスレー, リュージュ, スケルトン)と各都市に分散し, オリンピック村からもっとも遠いDeer Valleyは車で60分の所にある。また会場全てが1300メートル以上の高所であり, 特にユタオリンピックパークで2100メートルとなっている。分散会場であり, そして極寒冷, 乾燥, そして高地である環境条件での選手のコンディショニングの維持管理が大切となる。日本オリンピック委員会は2000年4月より専任ドクターとして, 整形外科医 高尾良英, 内科医 大西祥平の2名を選出し, 医学サポートを行うこととした。特にメダルが期待される強化指定種目, 純ジャンプ, ノルディック複合, スケートそしてスケルトンを中心とした選手強化を行い, メディカルチェック, 合宿参加, 世界大会派遣を通じた選手の健康管理, 競技パフォーマンスに対する貢献を目的として事業が行われている。

2000年度からの事業内容として, 上記に述べたメディカルチェックそして結果のフィードバックを重要とし, 少なくとも年に2回行ってきている。ジャンプにおいては, 特に減量という要求における生体への影響を細かく観察すること, すなわち定期的な体脂肪測定, 食事指導, 自律神経活動の変化などである。血液による肝機能測定も合わせて行っている。ノルディック複合競技やクロスカントリースキーは寒冷, 乾燥, 高所であることによる呼吸器系への負荷の有無として, 運動誘発性喘息を中心としたチェック及びケアを中心に, そして定期的なヘモグロビンチェックも行っている。スケートに対しても同様のサポートである。このように合宿前から, 合宿時そして世界大会を通じて選手のコンディショニングを継続的に把握し, 管理していくことを主眼として, 現在活動中である。